

環境問題を考えてみよう

Think Globally. Act Locally.

わたしたちは、環境や社会の問題に対してあまりに巨大で、複雑であるために、その解決に無力感を感じていないでしょうか。

しかし、誰かが実態を直視して、具体的に行動を起こさなければ、けっして世界は変わらないという現実があります。

環境問題を考えるうえで、“Think Globally. Act Locally.”（地球規模で考え、足元から行動せよ）という標語があります。

環境や社会の問題には、国境や県境はありません。誰もが世界や社会を良い方向に変えるチャンスをもっています。

地球環境問題は複雑

地球環境問題は、人類が直面する重要な課題です。そして、そのプロセスは多岐にわたり、それぞれ関連しあった複雑な様相を呈しています。

また、環境問題は常に変化しています。1960年代、高度成長期の日本で、水俣病・イタイタイ病、大気汚染によるぜんそくなど産業公害が発生し、自然破壊も進みました。当時はそれぞれの因果関係が比較的明らかであったため、公害対策によって一応の成果を得ることができました。

しかし、現在の地球環境問題は複雑で、わたしたちの日常生活自体や通常の企業活動も影響しており、即効的な対策が難しくなっています。

問題解決のためには

環境問題の認識は多様であり、国や人によっても大きく異なっています。何が正しいのか、結論がでないこともあります。自然環境は価値が高く大切で守るべきものですが、人間の経済活動のために過剰に使われる傾向があります。それは、人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いまま、行動・生活をしていることに起因しています。

環境問題を改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要です。環境問題は複雑で大きすぎるため、「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちですが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域社会とコミュニケーションを図ることで、改善に向けて前進することができます。

現世代のつけを将来世代に払わせてはならない

地球は、わたしたち現世代の人間だけのものではなく、わたしたちの子供や孫の世代を含む未来の全ての世代の生存に対して責任があるという認識をしなければなりません。たとえば、埋蔵量が有限である化石燃料を使い尽くしてしまえば、将来世代はその資源を使えなくなってしまう。長い人類の歴史の中で、現世代とその前後数世代だけが、資源を独占してしまってよいのでしょうか。

また、私たちが地球環境を破壊してしまえば、私たちが加害者、将来世代は被害者という関係になります。将来世代には責任がないにもかかわらず、過去世代から与えられた不利益を被って生活していかなければなりません。現代に生きる私たちは、地球環境を破壊したツケを将来世代に払わせてはなりません。

資源・エネルギーは有限

地球環境問題で明確に認識しておかなければならない事項は、地球に存在する資源・エネルギーは有限であるということです。現代の経済成長を優先して資源・エネルギーを使いつくせば、やがて枯渇し、その資源・エネルギーから享受していた恩恵は消失するわけです。そして、それ以降の将来世代の利用可能性が否定されることとなります。

資源・エネルギーが有限であることを生活の中で実感することは困難です。しかし、有限であることの認識をもち“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努めましょう。



ごみをうめる場所が満杯になって、
行き場がなくなってしまいます。



ごみの処理には、たくさんのお金と
人手とエネルギーがかかります。



ごみを正しく処理しきれなくなると、空
気や水が汚れ、地球の環境が悪くな
ります。



地球の環境が悪くなると、そこで暮らし
ている私たちや生きものにも悪い影響
をあたえます。



ほくたちや地球の
生きもののために
ごみはへらさないとい
けないね！



ごみをへらす
ために
わたしたちに
できることは
ないのかな？

**負荷が低減される社会をつかって、この美しい地球を良好な
環境のまま次の世代に引き継ぐ“責任”があります。**